

# 三遊亭らん丈 後援会会報

## 『はじめに言葉あり』 三遊亭らん丈

ぼくはカトリックですから、日々聖書の教え

を拳拳服膺しているかといえは、もちろんそんなことはありません。たとえばマタイ伝五章二八節にある「すべて色情を懐<sup>いだ</sup>きて女を見るものは、既に心のうち姦淫したるなり」なのであれば、ぼくは日にいっぺんは姦淫しているようなものですから、いやそれ以上かな。

「ここでぼくがいたいのは、聖書を英語ではバイブルといいますが、それはギリシア語の「本」から来た言葉であるという点です。

素通りできず強迫観念に駆られたかのように書店を見るとどうしても入ってしまう。ぼくはいまやブームとなつてこの本屋に行つても積みまわっている日本語に関する本のコーナーを見るたび、これでいくぶんかは日本語の危機が回避されるのではないかとホッと胸をなでおろ

すのです。

この日本語ブームの嚆矢を担つたとおぼしき『日本語練習帳』の著者大野晋によれば、昭和三十年代の高校生は三万語の単語を身につけていたといえます。ちなみに「新明解国語辞典」の収録語が項目数七万五千ですから、いかに当時の高校生が豊富な語彙をあやつっていたかが分かります。いまや、大学生でも三万語の語彙を知っているものはごく僅かでしょうから。

それが証拠に、六月十九日文化庁が発表した調査結果によれば、「つとに」という言葉の意味が分からないティーンエイジャーが、八五%もいるといえます。したがって、三千人に面接し二千二百人から有効回答を得たものの、この言葉を使うものは皆無だったのです。たし

かに、意味を知らなければ使いようがありません。ほかに半数以上の回答者が分からなかった言葉を挙げるに、「けんもほろろ」、「よんどころない」、「いわずもがな」、「ゆゆしき」とみにがそれです。

ぼくは仕事柄、言葉には人様よりは幾分か多くの関心を払っています。

たとえば、六月は日韓で共催されたワールドカップに世界中の耳目が注がれましたが、ぼくはなかでもコメントに注目しました。選手も監督もさすがが良いことを云っているのですもの。日本代表の監督を勤めたトルシエは、最終戦となったトルコとの一戦後に見せた涙について「泣かない男のプライドはあったが、涙を見せるのにふさわしい場所だったと思う」と振り返りましたし、その身に着けているものを手に入りたいと願つ「ベッカム現象」まで起こしたイングランドの主将は、ブラジルとの敗戦を振り返つて「ブラジルはいつも輝くようなサッカー

2002年7月10日発行  
第16号 頒価100円  
三遊亭らん丈後援会  
【URL】<http://www.ranjo.jp/>  
〒194-0013 町田市原町田5-13-3-102  
TEL 042(732)2004  
FAX 042(732)2005

をする。今日は我々の日ではなかったんだ」という言葉を残して祖国に帰りました。そして、何よりも心に残ったのは韓国の安貞桓(アン・ジョンファン)がイタリヤ戦でPKを外したことに關してその翌日、「あのPKのことは思い出したくありません」と答え、続けて「マウム・ソゲン・ウルゴ・イツツタ」プレーをしながら心の中でずっと泣いていました」と云った台詞です。

そんなとき、気がかりな一報が入ってきました。六月二十五日に閣議決定された経済財政諮問会議(議長・小泉首相)による、経済財政運営の基本方針「骨太の方針 第二弾」の内容です。正しくは「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2002」と称し、その第二部・経済活性化戦略において、「人間力戦略」として「英語が使える日本人」の育成を謳っています。この「英語が使える日本人を増やすこと自体には、なんらの疑問なく当然のことと深く首肯するものですが、その前にしなければいけないことは、日本語をまともに使えないようにすることではないでしょうか。

この「カウソール」での英語を駆使することができて、それをつかさどる内実が伴わなければ折角の宝も持ち腐れとなってしまいます。まず、国語教育の充実がなにも増して重視

されなくてはなりませんし、それと並行して日本のことを教えなければなりません。人はだれしも出自(おのれの拠つて来たところ)があるのですから、それを知らずしての、国際化はありえませぬ。

外国に行けば、日本人はサッカーのことよりも、相撲についての質問をうけることになるでしょうし、シエークスピアよりも近松門左衛門のことを訊かれるでしょう。禅とは、茶道とは、華道とは、能や狂言とは、世界で最も短い文学形態「俳句とは、世界で他に類をみない一人話芸」「落語とは」と訊かれて、果たしてわれわれはどれだけ正確に答えることができるのでしょうか。

あるいは美術ひとつとつたところで、われわれはレオナルド・ダ・ヴィンチやゴッダについて、滔々と語る事ができても、本阿弥光悦や伊藤若冲のなにを知っているといつのでしょうか。ことほとさまつに、我々は国際化に資す

るために英語を駆使する何よりの前提として、先ず日本を、そして日本語をより良く知らなければなりません。

また、こつも考えられます。柔道は日本で生まれ、いまやオリンピックに欠かせない種目となり、世界に広く伝播した競技ですが、そこで使われる言葉は日本語です。「有効」「や」「効果」とフランス人でも言つのです。ですから、日本が一流の国になれば、他国の人々も我々が英語を学習するように、日本語を修得しようとするでしょう。一流国日本への憧れがそうさせるのです。日本語のデファクトスタンダード化です。

いずれにしろ、大事なのは言葉です。ですから小稿のタイトルを、ヨハネ伝の劈頭(へきとう)を飾るあまりにも有名な一節から引いたのです。続けてヨハネ伝ではこう云います。「よるずのものこと(言葉)によりてなり、成りたるものひとつとしてこれによらで成りたるはなし」と。

## 『タウンミーティングに参加して』 三遊亭らん丈

小泉内閣の三代前、橋本内閣のときに中央省庁の再編成に向けた法案が国会に提出され、次の小淵内閣がそれらの法案をすべて成立さ

せ、その実施は森内閣によって果たされました。三内閣を費やしてなんとか達成した中央省庁の再編成ですが、実施されたのは二〇〇

一年一月六日。二十一世紀の初頭を飾るビッグイベントをなぜ、官庁の仕事始めに合わせずに、わざわざ土曜日で本来は休日の六日に設定したのでしょうか。理由はその日が大安だったからだとす。つまり、始めから神頼みの省庁再編だったわけです。

行政において最も重視される案件はいつまでもなく予算編成です。予算編成の実権を握っていたのは大蔵省の主計局ですが、財務省への移行にともない、内閣主導の予算編成を実行するために省庁再編後は、首相直属の内閣府に経済財政諮問会議が設置されました。民間の意見を取り入れた予算編成をするための審議機関にしようと、官邸は目論んだわけです。その事務局役として経済財政政策担当相竹中平蔵がいます。その竹中大臣と総合規制改革会議委員の佐々木かをりの二名を回答者に迎えて、さる六月十五日午後二時から四時まで内幸町のイノホールにて、小泉内閣の国民対話「タウンミーティング」が開かれました。

どれほどの倍率だったかは分かりませんが、案内状が届いたばかりは、その日は浅草演芸ホールにて五時の出番でしたから、ちょうどいい塩梅なので、出席しました。

その日のテーマは「暮らしと改革」でした。まず、竹中大臣による一時間の基調講演があ

りました。竹中平蔵とは、大臣就任直前まで慶應義塾大学総合政策学部で経済政策を担当していた教授です。東谷暁著『誰が日本経済を救えるのか?』(日本実業出版社)で、東谷は竹中大臣のことを、そもそも自説というものがなく、宮崎駿監督のアニメ『千と千尋の神隠し』に出てくる「顔なし」というキャラクターのごとく、その時々飲み込んだ説を自説として論じられる人と評しています。

たしかに、その柔ちゃんそっくりの容貌から発せられる言葉は、一見くまつくつなことを言っているように聞こえます。たとえばこの日も、日本が進むべき道は「正直者がばかを見ない世の中」である、と断っていました。これだけを聞けば修身の教科書じゃあるまいし、なにを当たり前のことを言っているのよ、と思わず茶々のひとつも入れたくなるような主張とも云えない、他愛のない言説です。ところがその本意は、所得税の課税最低限度額と法人税率の引き下げにあります。その財源は歳出削減や法人税・所得税の優遇措置の整理で賄うという構想です。つまり、最高税率の高さを上げた高所得者の累進税率を緩和し、その分、今まで非課税だった低所得者からも広く徴税しようといつ、きわめて功利主義的な考え方を披瀝したのです。

課税最低限度額の引き下げは、前回の総選挙において野党の民主党も政策として表明したもので、ときの蔵相宮沢喜一がエールを送るという、与野党が倒錯した政治課題でもありますが、ぼくの意見を云わせていただくならば、竹中大臣とは真つ向から対峙し、反功利主義的な正義概念であるロウルズの正義、つまり社会で最も不利な立場に置かれている者が最も多く受益する社会を招来すべきものだと考えています。これは、ハーバード大学教授のジョン・ロウルズが提唱したもので、マックス・ミン原理と言われているものです。この原理には批判も数多く寄せられています。たとえば、社会における最底辺以外の人については考慮しないうえ、幸福度や不幸度の強さに対しても配慮しないことなど。けれど、ぼくは政治の要諦は社会的弱者に手を差し伸べることにありと確信していますので、この信念を変えるつもりはいささかもありません。

さて、タウンミーティングですが、竹中大臣による基調報告が終わると、会場の聴衆の質問に竹中平蔵と前述の佐々木かをりが答える場がセットアップされました。最初の質問者三名は予め決められていましたが、あとは会場の任意の挙手者からの質問を受け付けました。時間の関係でその数は八人に絞られたのです

が、四百人以上はいた聴衆の中からの八人です。選ばれる確率はたしかにごく低いものです。その八人が、サクラあるいは前もって決められていたとする何らの確証はないものの、結果としてばくは拳手としても、その八人のなかに選ばれることはありませんでした。

では、拳手をしたばくはどんなことを質問したかったのでしょうか。それは、竹中大臣が基調講演で触れた「正直者がばくを見ない世の中」にしたいということ。現在の日本は正直者がばくをみているのでしよう。いったいどんなばくかを見ているのか、具体例を挙げてお答えいただきたいと質問するつもりだったのでした。この質問は次回のタウンミーティングへと持ち越されたのですが、そのときも果たして竹中平蔵は閣僚のままであることや、はなはだ心許ない現今の小泉内閣です。

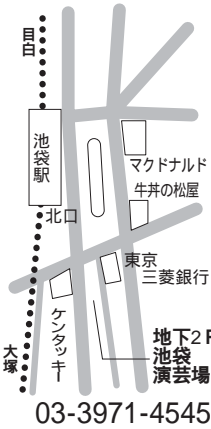
「どうしまシヨウ」案内

七月二十四日 午後六時半開演  
池袋演芸場(下図参照)にて 前売:千八百円

今回のテーマは「保険」です。日本はヨーロッパ諸国とくらべて社会保障があまりにもお粗末なので、どうしても自助努力が求められます。したがって保険加入率が世界的に見て圧倒的に高いのです。

われわれが加入している多くの大手生保会社が非営利の法人であり、主たる収益源泉が保険販売ではなく投資収入であることは意外と知られていない事実です。投資の中心は株ですから、バブルがはじけて以後の株価の下落にともない、生保各社は資金コストが貸出金利を上回る逆転に苦しんでいます。そのために、生命保険会社の破綻や外国資本への吸収が近年多々見られるのです。保険とは本来安心を買うものなのににもかかわらず、保険に加入したために不安に苛まれているのが、いまの日本の生保会社の現状です。その不安を少しでも払拭したいがために、今回のテーマとしました。

池袋演芸場案内図



次回は十月三十日(水)を予定しております

『ホームページ開設のお知らせ』らん丈もホームページを開設しました。落語会のお知らせや趣味の俳句、大学の授業で発表したレポート、某誌に連載中のエッセイ等を掲載予定ですので、どうぞアクセスしてください。

<http://www.ranjo.jp/>

「三遊亭らん丈」後援会入会要項

入会金(会員証作製費+郵送料)として入会者全員から二千円申し受けます。

年会費は四千円ですが、池袋演芸場で行う「趣味の演芸」の入場券(二千円)を年間二枚差し上げます。

★入会金二千円+年会費三年分一万二千円  
一万八〇〇円、合計二二、八〇〇円

年会費を三年分前納して下さった方には、10%割引させていただきます。

★入会金一千円+年会費二年分八千円 七六〇〇円、合計九、六〇〇円

年会費を二年分前納して下さった方には、5%割引させていただきます。

★入会金二千円+年会費一年分四千円、合計六、〇〇〇円

会員証と後援会会報のみ御送りします。

振込先口座

郵便振替・口座番号0010001730458

加入者名・三遊亭らん丈後援会

《東京三菱銀行・町田支店》

普通預金・1897690 三遊亭らん丈

《みずほ銀行・町田支店》

普通預金・8046459 三遊亭らん丈

《三井住友銀行・上野支店》

貯蓄預金・7268919 三遊亭らん丈

《UFJ銀行・町田支店》

貯蓄預金・1096152 三遊亭らん丈

【お問い合わせ先】

TEL(042)7332 20004  
FAX(042)7332 20005